

新島村 議会だより

第78号

平成28年9月



平成28年第3回定例会（9月）

会期日程

第3回定例会は平成28年9月13日から15日までの3日間開催され、平成27年度決算、各種補正予算などを審査しました。

もくじ

一般質問から	2
視察報告(下)	6
議長の自ラウンド	9
公共施設再見	9
議長の四季報	12
編集後記	12

Q & A 一 般 質 問

議員は「住民に代わって」村の行政全般に対して、事務の執行状況や将来の方針、計画あるいは疑問点などについて所信や疑問をただすことができます。

問 今夏の観光の成果は？
観光客の入り込み状態をふまえ、



山本均議員

答 この夏の観光をどのように評価するか？
7、8月の入り込みは、新島が対前年比で107.6%、式根島は同98.4%だった。8月に連続して台風が発生し、船の欠航が大きく影響した。式根島は8月には120%に達する予約状況と聞いている。
今後は観光客のニーズにあわせた様々な形

表紙は語る

運動会の練習や生徒会の役員選挙準備で賑わう新島中学校の放課後、それと対照的に静かに生徒と教員が集う図書室。

昨年より特別支援教育分野の教員が中心となり、授業以外での学習習慣を定着させることを目的とする『新島未来塾』が開催されている。普段は一日2組限定の予約制個人指導であるが、中間テスト前の5日間は自由参加

形式で図書室や各教室で開講されている。

教員手作りの学年・科目ごと3種類以上のプリントが長机3台の上にぎっしりと並べられており、その中には生徒自ら作成していたプリントも混じっていた。この日は20名近い図書室の利用者があったが、特別支援教育分野だけでなく校長先生をはじめ各先生方がそこかしこの教室で指導する姿も見られた。



B堤から式根島行のにしきに乗り込む観光客等。

議会にいきかう言葉

暫時休憩——議会の審議中、議長からこの言葉がよく発せられる。文字どおりしばらくの間休憩する、その意味で使われることもある。

しかし往々にして議員の求めに応じての場合がある。もしかしてこの方が多いかもしれない。議会中の発言はすべて録音され、会議録に残る。このため記録に

とどめることをはばかられるような時に利用される。

ということはある、重要かつ真実を含んでいる可能性がある。オフレコでのやりとりで言い分に決着をつけ、再開の場面でシレッと紳士的な応答で幕切れ。

だから議会の真の姿を知るには傍聴するに限る、こんなことが言えそうだ。

態の島宿の提供を考えていかなければならぬと思う。

特養ホームの現状と課題

問 特養ホームの現状と現在の業務運営はいつまで続いていくのか？

答 平成28年4月1日から9月1日まで

の就業者の変動は、介護職は就業3名、退職3名、休職4名、看護職は就業1名、退職1名、調理職は就業1名、退職2名、休職1名、洗濯・清掃職は就業2名、リハビリ等職は退

職1名となり合計で就業7名、退職7名、休職5名が現状である。

デイサービスを一時休止したのはスタッフ不足により事業全般の安全運営が難しいと判断し、施設サービスと短期入所サービスを最優先した。

今後の見通しは、スタッフの確保等を図り出来るだけ早いサービス再開を目指し、平成29年度初めを予定している。



旧新島中学校校舎の現状と今後

問 旧新島中学校の校舎の現状はど

うなっているのか？

答 基本的に閉鎖（体育館は今までと同様）としており、施設として人が立ち入れないようにしている。

問 今後の活用方法の現時点での方針は？

答 今後、役場庁舎、診療所、保育園など現地建替えが困難



廃校となった旧新島中学校の全景。

な公共施設の用地として、また住宅用地としての活用が考えられ、来年度中には大まかな利活用計画を作りたい。

避難訓練のあり方は？

問 10月の防災訓練はどのような訓練を行うのか？

答 南海トラフ巨大地震による津波災害を想定し、夜間訓練を行う予定でいる。訓練の目的は夜間の避難路の確認、避難場所への安全な避難、避難場所での個々の人員確認等である。

今後は関係者の意見を取り入れ、より実践的な訓練を実施していきたい。防災訓練の回数や各自治会単位での訓練も検討していきたい。

また防災の専門知識をもった職員の確保などを検討し、訓練等は予告な

し時間指定なしでの発災訓練、実際の被災経験者・有識者等の講演会、有識者による訓練の実証や分析を行いたい。

木村諭史 議員



新島村の人口減少抑制策と現状について

問 現在の年間あたり減少数、目標として抑えるべき年間の減少人数、戦略的に年間何人の人口増加を目指さなくてはならないか？

答 年間平均の人口減少数は31.7人となつていて。そのうち自然減が20.6人、社

会減が11.1人となつている。社人研の推計による将来予測と新島村の目標値の差である年間5人以上増の要因を作る必要がある。

問 新島村が浮くか沈むかの瀬戸際であり、年間5人という数字は顔が見える関係かつ、一産業分野で一組でも、創業やUターン・イター

ンを引き込めば達成できる数字である。戦略と目標を明確にしてほしい。

答 年間ノルマのようにとらえる必要はないと思う。日本の社会情勢の変化によっても変わってくるだろうし、特に観光業などの産業振興により『稼げる環境』ができれば自然と人口は増えていくと思う。

婚活事業への評価と今後の方向性について

問 婚活事業は過去4回の実施で毎回15名前後の男性参加者があり、毎回2組程度が婚姻にいたる見込みになっている。婚活は配偶者に

よる社会増と出生による自然増を促す効果が見込め、年1回の婚活事業で年間6人の人口増加が期待できる。

婚活事業への評価と、



婚活イベント。大望のカップル誕生の瞬間。

課題となる予算対策・参加者の主体性の確保・今後の事業内容と頻度・新しい参加者層への対応などの期待を問う。

答

成果に対しては実績から見ても評価すべき事業であり、私の任期が続く限り継続したい。費用対効果の高い事業であることは間違いありません。今まで実施主体として頑張っていた方々ともよく協議し、無理なく継続できる形にしていきたい。村職員を交えた形の実行委員会形式や、主管課を決めた事業実施も検討していきたい。

人口一人増加のためにかけるべき費用について

問

企画財政課により、普通交付税は

人口一人増加あたり23万円増額となることを示された。対象者で金額が異なることや、社会福祉などの支出も加味する必要があるが、婚姻により20・30代の人口が増加すれば、村財政としては年間およそ10万円のプラスになると思われ、20年居住する1名の移住者の増加に200万円かけても長期的に回収できると思われる。今後のためにも大まかな指標を問う。

答

人口減少抑制策は必須であり、様々な観点からのアプローチが必須であると考えます。大まかな基準ということですが、行う事業によっても金額が変わるので、具体的な金額を出すことはこの場では避けさせていただきますが、何をすべきかを第一に考え、取り組んでいきたい

と思っています。

前田 卓秀 議員



オリンピックサーフィン招致について

問

サーフィンを招致するにあたり、今のところ各候補地がプレゼンをする場がないのはおかしい、不透明だと私は思っている。この事について村長はどう対処、対応していくのか？

答

私もフェアでは無いと思っています。最終決定されるまでは、招致に向けて活動を続け、プレゼンの機会を与えてもらえるように訴え

ていく。そして島内外から多く署名をいただいたので、これを携えて少しでもメディアに取り上げてもらえるよう画策していく。活動は招致委員会中心になるが、いろいろな状況に対応できるように、予算も措置し、政治的な活動も含め招致に向け努力していく。



羽伏浦海岸。チューブをくぐるサーファーの妙技。

兵庫県^{ささやまし}篠山市と^{たんばし}丹波市の視察（下）

「人を呼び込むまちづくり」

議員 木 村 諭 史

・ 都会から地方へ I ターン

2泊3日の兵庫県議員視察において、前号の篠山市に続き丹波市編を報告する。丹波市訪問の目的は、移住支援策の調査とI(アイ)ターンを促進する人や活動の視察である。Iターンとは都会から地方への移住のことであるが、都会にない自然・人のつながりなどの価値を求めて、積極的に地方での人生を選ぶ人たちも増えている。

・ 丹波は広かった！ 23区並みの広さに250の集落

篠山市から隣の丹波市は、奥多摩にも似た溪流沿いをバスで一時間ほど進むとようやく次の中心市街地が姿を現すほど広大であった。

それも当然で、丹波市は493km²と東京23区のおよそ8割に匹敵にする面積に7万人を切る人口を有している。丹波市に集落は250あるといわれ、集落の独自性が高く自治を大事にすることから、集落ごとに人をつなぎ止める機能を有している。



丹波市へ向かうバスの車窓から。

・ “Iターンさん” 集落の中のおよそ者像

丹波市の中心市街地には市外からの通勤者も多いものの、周辺集落では今まで『よそもの』が入ってきたことが少ないため、『あなたがIターンさんか!』と珍しいものになっている。また集落内の共同作業に徹底して参加するなど『村入り』しないと溶け込めないそうだ。

・ 充実した移住施策を学んだ議会訪問

丹波市議会への表敬訪問の際には、17 項目にわたる空き家対策や移住受け入れ政策など充実した政策に圧倒された。一例として、『今のまま住み続ける発生予防対策』ではリフォーム助成でおよそ 3000 万円の予算、『有効に活用する利活用対策』では住居・起業・地域活性化支援など目標別に合わせて 1000 万円を超える空き家等回収補助金、『危険家屋対策』でも 2000 万円を超える予算を確保している。また、丹波市では議員各自が地方創生を本気で考え、会派ごとに予算根拠も含めた提言を行っていた（これに刺激を受け、新島村議会でも議員間で連携して政策立案しようという合意がなされた）。

・シェアハウスの現場を視察しました！

丹波市の移住支援策の一つである、1 ターン専用シェアハウス『みんなの家』を見学した。

シェアハウスとは、複数の入居者で住宅を共有（シェア）するものである。一軒家を一人で借りるより家賃は安く、部屋は各個人で施錠できるが台所やトイレは共有する場合が多い。入居者同士で食事や悩み相談が共有できるため、移住相談から地域への定着まで柔軟に支援できる。



みんなの家にて。左側の代表者・井口氏の説明。

シェアハウスとは、複数の入居者で住宅を共有（シェア）するものである。一軒家を一人で借りるより家賃は安く、部屋は各個人で施錠できるが台所やトイレは共有する場合が多い。入居者同士で食事や悩み相談が共有できるため、移住相談から地域への定着まで柔軟に支援できる。

・人が人を呼ぶ、1 ターン促進のしくみが見えた！

代表の井口元氏は、2012 年 11 月に後述する横田氏の選挙応援を通じて移住し、2013 年 1 月にはシェアハウス『みんなの家』を始動させ、9 月には法人化させるほど機敏に活動している。『株式会社みんなの家』は 2015 年度は丹波市からワンストップ相談窓口業務の委託を受け、2016 年度も継続している。訪問時点では 11 人の 1 ターン者を受け入れ、歴代 8 軒のシェアハウスが立ち上がっていた。

『みんなの家』は、入居のルールが特にないかわり、窓口になる人の個性や、物件・地域性にあわせて新しい居住者を紹介していく方法をとっている。あるシェアハウスから独立した人が新しいシェアハウスを開く『のれん分け』も広がっている。入居者の特徴として、20～30 代の若者が多いこと、不要物を引き取って使うなど、でき

るだけお金を使わないこと、お金を支払う / 貰うという関係だけで終わらない人付き合いを作ること、仕事の半分くらいを自ら作って兼業している人が多いこと、などがあげられる。

・人が集まるしかけづくり。その裏側を見た！

夜も 20 時を過ぎ、議員有志と議会事務局職員でたんば黎明館にて行われた Birthday（バースデー）というイベントを視察した。

丹波市をもりあげたい！という思いとアイデアと行動力が寄り集まって、『新しい活動が生まれた日＝バースデー』になってほし



会場となった兵庫県有形文化財のたんば黎明館。

いという願いで、地域住民が自発的に数か月おきに開催している。その中心になったのが丹波市議会議員の横田親（いたる）氏である。

横田氏は大手企業を退職後、丹波に 1 ターンし、なんとインターネットと人脈をフル活用して出馬決意から 10 日後に市議会議員当選、という稀有な経歴を持っている。この日のイベントは、3 人の提案者が 5 分発表し、参加者が輪になってアイデアを磨き上げ、最後に賛同者を集めて解散する、という内容であったが、40 人ほどの参加者の中には、遠く北海道から参加した熱意ある若者も居た。

・場所だけではない、活動や人への視察から得たもの

今回の兵庫県篠山市・丹波市視察では、両市とも時間オーバーの充実した議会訪問から、現地視察⇒実際の活動への視察⇒人への視察・交流へと、徐々に細かくフォーカスを合わせていった。施設や街並みはいつでも訪問できるが、活動の現場や人にはいつでも会えるわけではない。1 ターン増加と政策的に言うことは可能であるが、先駆者の人生をかけた実例から読み取れるように、圧倒的な熱意を持った個人の存在、人の縁、飛び込む人・受け入れる人の個性に合わせた助言、空き家の流通支援など、人を軸にした柔軟な対応がなされてこそその移住施策の実行であることが、議員一同、深く理解できた。今回の視察を通じて事務局と議員で共有できたことを、血が通った政策提案に役立てていきたい。



議長の目^{アイ}ランド



人が生活していくために必要なものと言えば先ず、空気や水、食物、住む所、電気と、一瞬で生命に係わるものから、時間が過ぎると徐々に影響の出ているものがある。その一つに通信がある。郵便、電信、電話、パソコン等は人と人との意思の疎通を図る便利な道具だと思う。特にパソコンの普及や活用は目覚ましく、会社や個人が島外と情報のやり取りをするのに使用しているのだが、使いたいときに使えない、知りたいときに知る事ができないという状態が何年も続いている。

そこで、伝達容量が大きく処理能力の早い光ファイバーケーブルで本土と繋げば、今困っている事がほぼ解消できることになる。ここに現在の光ファイバーケーブル敷設工事の計画と進捗状況を報告します。

4ヶ年の工事計画

- | | | |
|-----|--------|---------------------|
| 第一期 | 平成28年度 | 御蔵島・神津島（工事は着工しています） |
| 第二期 | 平成29年度 | 式根島・新島 |
| 第三期 | 平成30年度 | 利島 |
| 第四期 | 平成31年度 | 青ヶ島 |

となっているが、結果が出るまでは何が起きおるかわからない。豊洲市場の例もあるので完全に完成するまでは今後も村と共同して国と東京都に陳情要望していきます。

公共施設再見

第2回 新島村養殖場施設（下）

7月上旬、議員は養殖場を訪れ、現場を管理する宮川昇士氏（平成13年から現職）から直接、話を伺った。

まず現状をざっと概観するとA池のイケス6基にはそれぞれ採卵用の親真鯛50～60尾、天然真鯛24尾、平成26年度仕込んだ真鯛2,800尾（来年度出荷予定）が入っていて、2基が空いている。現在コンテナハウス内で育成している稚魚が一定の大きさに成長したら、空いているイケスに移す手はずとなる（11月現在、イケスには5,000尾の幼魚が移されている）。

平成24年度、25年度の2ヵ年、真鯛の種苗生産が村の方針でストップしたことで、現在の養殖魚の生産に大きく響いている、と残念そうに話していた。

どうも村側に養殖場の運営に一貫した明確な方針がないような、そんな疑念を生じさせるエピソードに聞こえる。

B池の3基のうち、2基には昨年仕込んだシマアジが1,500尾、真アジ2,000尾が入っていて、真アジは400～500gの大きさにして築地に出荷する予定とのこと（真アジは11月中に出荷し、シマアジは来年度になる）。

氏のこれまでの経験から真鯛の養殖が島の自然環境のサイクルに一番適しているそうだ。このため今後は真鯛の品質をそろえ、毎年2,000尾を目途に安定的に供給できる体制にもっていきたい、そう語っていた。

しかしこれで600万円の売上げを見込んでいるということだから、経営状況にはまだまだ厳しいものがある。今年度の養殖場の運営費は1,500万円で、このうち人件費とエサ代で全体の8割を占める。赤字解消にはほど遠い。ただ夏の不漁期に民宿の利用がありアテにされていて、その点で存在感をみせている。ということは養殖場の役割としては別のアプローチも必要かもしれない。

さて、もうひとつ氏が熱心に取り組んでいる真鯛の採卵からふ化、稚魚の育成、この作業の模様を紹介したい。これまで稚魚を購入して育成していたが、これをやめて手ずから採卵から始めるというもの（稚魚の購入には不確実性やリス



真鯛の稚魚を飼育しているコンテナハウス。

クが伴っていた)。以下は真鯛に恋した男の“養殖愛”の物語。

宮川氏の前の1トン水槽（2枚目の写真を参照）には約1.5センチの真鯛の稚魚、8千尾ほどが飼育されていて、1月半かけて3センチまでに成長させ、外のイケスに移すという（当初1万粒の卵からふ化し共食いや死滅で6千～65百個に淘汰される）。この間、背後にある水槽ではエサとなるプランクトンを培養し網ですくって一定の大きさにそろえ水洗いして与え、その模様を実演して見せてくれた。手前右側のガラスの円筒の容器（画面右端にわずかに写っている）には真鯛稚魚のエサとなる動物性プランクトンを培養していて、いずれの水槽・容器には新鮮な空気を送り込むポンプが忙しく作動してアワ



ハウス内の宮川氏の作業の様子。

立っていた。

この設備（コンテナハウスを含めて）は氏がほとんど無償で譲り受けたものばかりで、購入したのは水道の配管ぐらいとか。とにかく技術も設備も無の状態から手探りで始め、専門家に教えを乞い、器具をも

らい受け、どうにか採卵から稚魚を育て成魚とするまでの一貫養殖にやっと手応えを感じてきたという。

養殖場の日課は、朝8時に出勤すると池の海水の状態をチェックする。水温・塩分濃度・溶存酸素を測定し、イケスの点検をして弱っている魚は外へ出し、死魚は処分する。続いて事務所に入り東京の常連の店などに注文品の発送手続き、他の注文品を整理し、午後から配達となる。

イケスの管理は9時半からB池のシマアジ、真アジにエサをやり、A池の鯛は午後から。これは魚種によって食べ頃の時間帯が異なることによる。エサは経済性・効率性からドライペレットを使っている。魚の肉質はクセがなく自然魚と遜色ないとのこと。このような作業のあい間にも常にコンテナ小屋の真鯛の稚魚の成育状況、エサのプランクトンに目を光らせ、パソコンにデータを入力し、ともかく相手が生き物なので気が抜けないとため息混じりに話していた。最後に販売台帳、日々給餌表、水質管理表などの日報をつけてとりあえずの一日が終わる。

こうして見ていくと大変な仕事の割には、あまり報われていないな、という印象を持つ。叶うことならこの養殖事業が花開くことを祈りたいが、どんなものか。やはり村が積極的に動いて、少なくとも現在の生殺しとも言える中途半端な使い方はやめて、新たなアプローチや価値観を付与して養殖場の将来像を明確にすべきではないのか。

それにしても現場で頑張っている宮川氏の熱き思い、ほとぼしるエネルギーに圧倒されっぱなしの今日の取材ではあった。

● ● 議長の四季報 ● ●

- 6月17日 新島観光協会通常総会に出席
 21日 東京都に港湾関係要望書を提出
 22日 防衛省北関東防衛局幹部が来島
 23日 シルバー人材センター総会に出席
 28日 議員公務災害補償組合臨時会に出席
 29日 竹芝棧橋おがさわら丸竣工記念式典に出席
- 7月11日 平成28年第1回臨時議会
 20日 防衛省技術研究本部航空装備研究所上田新島支所長による平成28年度の発射試験概要説明
 21日 離島議長会総会及び研修会に出席
 26日 東京都町村議会議長会臨時総会及び東京都議長・町村長合同会議に出席
- 9月 7日 議会運営委員会
 13日 平成28年第3回定例会
 20日 光通信網設置大臣要望等



編集後記

「公共施設再見」のコーナーで式根島の養殖場を取り上げたことに住民の方から封書で意見をいただきました。お叱りや注文と言った方が正確かもしれません。私たちは貴重な提言と受け止め、今後の議員活動、紙面作りに活かし、みなさんの期待に応えていきたいと考えています。

このコーナーを開設するに当たっては非常に悩みました。題名からして……再検、……探訪、……巡回などと色々考えたのですが、ちよつとフラツと立ち寄って現場を見、話を聞いて感想を述べる、そういう体裁でいいのではないか、それで「……再見」としたわけです。それというのも本紙の信用力、影響力を考慮しますと、客観性と冷静さが何よりも重要です、それと共に若干の批評眼も必要かとおもいます。

自由闊達に意見を述べあうことは大切ですので住民のみなさんからの投稿は大歓迎です。私たちも至らない点があるうかと思えますので、これからも遠慮なく苦言、提案、助言等いただけたらと願っています。

● 広報編集委員長 山本均